Hakone Preservation Society
# はこね
箱根を守る会
会報 86号

画像提供 成川美術館

## 箱根を守る会 会報 町長新年あいさつ

### 「新年にあたって」

箱根町町長　勝俣 浩行

明けましておめでとうございます。
皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申しあげます。
また、平素は町行政に対し、ご理解、ご協力をいただき感謝申しあげます。
さて、私は昨年 10 月に実施された町長選挙にて、多くの町民の皆さまをはじめ各方面からのご支援を賜り、引き続き箱根町の舵取りという大役を担わせていただくことになりました。箱根町のさらなる発展に向けて邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申しあげます。
昨年は能登半島沖地震や南海トラフ地震臨時情報を受け、改めて巨大地震について考えされられました。全国的に台風や豪雨等による災害は激甚化・頻発化しており、さらには本町には活火山もあります。町では町民の皆さまの安全確保のため、さまざまな防災情報の発信を行っており、防災行政無線で放送した内容を公式 LINE でも配信するようにしたほか、避難体制の強化に向けて「災害時における箱根温泉旅館ホテル協同組合との包括的連携協力に関する協定」を締結しました。また、箱根 DMO において「地域防災プロジェクト」が発足するなど行政のみならず、民間事業者、そして地域が一体で観光地としての災害・危機対応力の強化を目指してまいります。
そのほか民間事業者による「移動スーパー」が町内で開始されました。販売場所では町民同士の会話が弾む場面が多く見受けられるなど、地域コミュニティの創出、活性化にもつながっているときいています。今後も買い物がより便利になり、町民の皆さまが住み慣れた地域で、より暮らしやすくなることを目指してまいります。
本年は、「やすらぎとおもてなしのあふれる町－箱根」を町の将来像とする箱根町第６次総合計画の後期基本計画も 4 年目に入ります。「若者定住の促進」、「健康生活の推進」、「防災力の強化」、「ブランド力の強化」、「持続可能なまちづくり」に重点を置いて、ここまでの 3 年間で積み重ねてきたまちづくりを、目指すべき姿として具現化していくため、計画の仕上げに向けて、さまざまな施策をこれまで以上に積極的に展開してまいります。
現在箱根町の観光は好調なインバウンドなどを背景に、回復の途上にあります。しかし、少子高齢化や世界的なインフレ・人材不足などの課題を抱え、国際観光地である箱根を取り巻く環境は、ここ数年で大きく変化してきました。今後も数々の困難を乗り切るために、協働・共生により、町民の皆さまや町に関わるすべての方々とともに力を合わせ、将来にわたって「誰もが住みたい」「誰もが行ってみたい」と思える、世界中の人に愛され続ける「オンリーワンの観光の町・箱根」を創りあげて次世代へ引き継いでまいります。
結びとなりますが、本年が素晴らしい一年となりますよう、皆さまのご多幸とご健勝を心から祈念しまして新年のあいさつといたします。

## ナガハシスミレ

神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員　勝山　輝男

ナガハシスミレ
2021.3.30 泉中沢林道

『ブナだより』の復刊第４号（2014 年３月）から「箱根とその周辺に分布が限られる植物」のタイトルで箱根周辺の固有種・準固有種に関する連載を続けてきましたが、これからは自由に話題の植物を紹介していきます。今回は箱根の南に続く日金山に産するナガハシスミレを取り上げます。

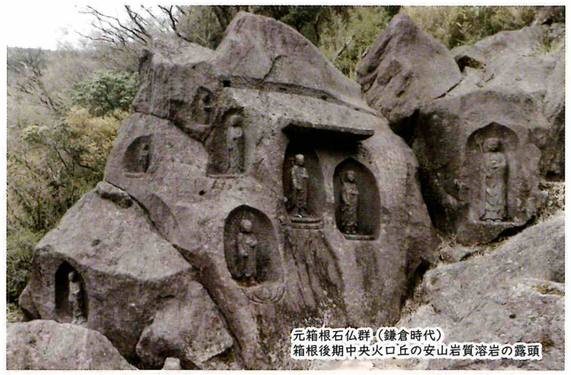
ナガハシスミレは北海道と本州の島根県以北の主に日本海側に分布するスミレですが、太平洋側でも所々で隔離分布しています。その一つが日金山から伊豆半島にかけての分布で、日金山周辺では湯河原側のハイキングコースの上部や、ハイキングコースを横切る泉中沢林道の法面などで、３月下旬～４月上旬に観察できます。

スミレ属の花の特徴は左右相称の５弁花で、唇弁の後方が筒状の袋になっていることで、この袋状の部分を距といい、蜜をためる働きがあり、花粉媒介者のハチやアブが口を距に差し込んで蜜を舐めるときに花粉が口のまわりに付着する仕組みです。ナガハシスミレでは距の長さが 1.5 ～ 2.5cm に達し、長い距を天狗の鼻に見立ててテングスミレの異名もあります。ナガハシスミレは地上茎をもつタチツボスミレの仲間で、葉形や花の色などはそっくりですが、花の後ろに直立する長い距があるので、花が咲いていれば容易に区別できるでしょう。

ナガハシスミレの学名は北アメリカの北東部に分布する Viola rostrata と同一種とされ、その変種 var. japonica または亜種 subsp. japonica とされています。ハエドクソウ属やイワウチワ属など東アジアと北アメリカ東部に隔離分布する属が多くあることが知られていますが、コスモポリタンではない本種のようなものが、種レベルで隔離分布する例は思いつきません。今後、研究が進めば、ナガハシスミレは日本固有種として新たな学名が提案されると思います。

## 箱根ジオ散歩①<br>数少ない箱根の露頭保全

箱根ジオパーク推進協議会事務局　笠間　友博


元箱根石仏群（鎌倉時代）
箱根後期中央火口丘の安山岩質溶岩の露頭

根府川釈迦堂の釈迦像（江戸時代）
箱根外輪山の安山岩質溶岩の露頭

湯本白石地蔵（鎌倉時代）
箱根火山の基盤岩 早川凝灰角礫岩の露頭

箱根火山の歴史は、噴出物である溶岩や火山灰を調べることで明らかになります。これらは地層として厚く堆積し、山体をつくっています。しかし、私たちが観察できるのはボーリング調査などを除くと地表部分のみです。ところが、地表部分には土壌があり木や草が生え、地層が見える「露頭」は限られています。箱根火山は豊かな緑に覆われているので、露頭は、大涌谷、早雲地獄、湯ノ花沢といった噴気地帯、早川・須雲川などの川岸や川底、海岸の岩場、山の急崖、採石場および一時的ですが土砂崩れ現場、工事現場などにあるだけです。

箱根火山は明治時代から研究が行われている火山ですが、調査はこれらのごく限られた露頭で行われています。研究は今後も進展するでしょうが、過去の研究の検証や新たな研究の資料収集でも、これらの露頭は重要です。

箱根ジオパークでは、これらの露頭のうち代表的なものを地質サイトとして指定して保全に取り組んでいます。具体的には、長尾峠の露頭、堂ヶ島の露頭、須雲川橋の露頭、大涌谷、大涌沢、須沢、玉簾の滝、千条の滝、飛龍の滝、飛龍の滝下の柱状節理、蛇骨渓谷（以上箱根町）、片浦海岸の露頭（小田原市）、岩海岸、三ツ石海岸、如来寺跡の境内洞窟（以上真鶴町）、福浦カツラゴ海岸の露頭、不動滝、幕山（以上湯河原町）、夕日の滝、蛤沢周辺、矢倉岳、文命堤の露頭、酒匂川の露頭（以上南足柄市）です。

これらは国立公園内や県立自然公園内にあったり、町文化財や市名勝に指定されていますが、露頭の保存に焦点を当てているわけではないので、風化、崩落、植生の繁茂など自然の営みによる変化は避けられません。

箱根町の元箱根石仏群、白石地蔵は鎌倉時代の作品と考えられています。これらの姿を今日も見られるのは、人々に忘れ去られることなく見守られてきたためと思われます。箱根ジオパークの地質サイトも、多くの人に忘れ去られることなく、見守られるように取り組みを進めて行きたいと考えています。

## 箱根の『キソエビネ』

箱根を守る会理事　　田代道彌

### □ヒマラヤと箱根を結ぶ植物の分布ルート

キソエビネは本州・四国・台湾・中国の四川や雲南の山地をへて、ヒマラヤへと飛び石のような分布を示すラン科の１種である。本種が箱根にも自生することを私が知ったのは、昭和 48 年のことであった。当時小田原市郷土文化館で、児童の夏休みの宿題の生物標本に和名をつけるサービスをしていた時、一人の男子小学生のさく葉標本の中に、開花中のキソエビネがひと房あった。採集地は駒岳から神山に至る登山道だそうで、箱根にキソエビネが自生する事実がこれではじめて確認された。

それ以前の神奈川県植物調査会偏『箱根植物』（大正２年）には、キソエビネは記録されていない。ついで松浦茂寿『箱根植物目録』（昭和 33 年）にもキソエビネは報告されていない。ただ同書はナツエビネに神山の地名を付記していて、これはキソエビネの誤認の疑いが強い。県下ではナツエビネは稀で、丹沢の記録は少数あるが箱根における自生はまだ知られていない種類なのである。

### □絶滅の道をたどる箱根のキソエビネ

その後『日本植物総検索誌』などの著者杉本順一氏にお眼にかかる折があって、早速箱根のキソエビネに関するご知見を伺ってみた。その時氏はそれなら駒岳から神山への登山道の両側を見ていればそれは容易に観察できるとのことで、私は内心唖然とした。戦前の箱根の自然界はそれ程までに植物も豊富だったと云うことなのであろうか。

その後も私はこれらの地域に登るごとに、登山道を避けて藪こぎをする努力をした。その結果冬ではあったが神山の東側斜面でキソエビネの若い株をみたのを手始めに、それより駒岳にかけて７箇所に自生地点を確認した。

ところが数年前本会理事数氏を案内してその自生地を巡った時、意外にも１株も発見できなかった。原因としてシカの食害を擧げることになるが、この覚え書が箱根のキソエビネへの挽歌にならないことを祈るばかりだ。

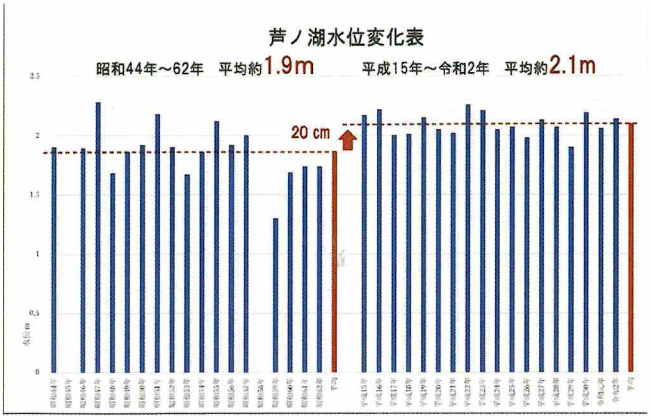
本種は前述したようにこの地域の植物相の起源を物語る重要な古種である。最初チベットで記載された Calanthe alpina 種は、中国で var.fimbriata 櫛歯殷背蘭に、台湾高地で var.fimbriatomarginata フサエビネに、日本では var.schlechteri キソエビネになど地理的な変異を生じながら、しかも古種の通例として孤立分布への課程をたどっている。

そしてその中で現状を見て最も絶滅に近い位置にあるのはキソエビネである。それは分布域の最北に相当することもあるが、何よりも自生地の自然環境の規模において、中国やヒマラヤには比較すべくもない以上、保護施策は急施の必要があることを強調したい。

## 芦ノ湖の水位上昇への警鐘

箱根を守る会 理事　勝俣正次

現在の芦ノ湖の水位は昭和時代よりも約 20 ㎝も高くなってしまっている。その原因は昭和 63 年に始まった旧湖尻水門の建て替え工事にあった。当時の水門周辺はトウゴ渕と呼ばれ、イモリなどの水生動物や陸産貝類などが見られ、自然豊かな環境が広がっていた。ところが建設工事の際にトウゴ渕の砂礫は除去され、周囲の土手はコンクリートで覆われて、それまであったトウゴ渕の豊かな自然は跡形もなく消え失せてしまった。また水門前後の河床もコンクリート化した為に水門の地下を早川へ流出していた伏流水までも止めてしまい、水門が完成した平成 2 年以降、行き場を失った伏流水を貯留した芦ノ湖は以前よりも水位を上昇させ、防災面においても重大な影響を及ぼした。水位が上昇すれば湖が氾濫し易くなるのは当然で、平成 17 年、19 年の早川洪水や、令和元年東日本台風災害時に芦ノ湖や早川の氾濫は顕著な例であった。県に対して行政文書公開請求をおこない芦ノ湖の水位記録を調べてみると、新湖尻水門が完成してからは実に年平均 20 ㎝も湖面の水位が上昇していたことが判明。なおかつ水位の高止まりと渚の消滅により湖が持つ浄化作用を消失してしまった。神奈川県環境科学センターが平成 21 年 10 月に発行した研究報告第 32 号「環境基準超過水域の原因究明～芦ノ湖について～」の中で水質指標のＣＯＤは、昭和 50 年よりも平成 19 年のほうが 1.4 倍も悪化したと報告している。新湖尻水門による芦ノ湖の貯留は、住民たちにとって百害あって一利なしであり、安全であった昭和時代の芦ノ湖の水位まで戻す為には、河川管理する神奈川県知事に対して湖尻水門の柔軟性のある操作の見直しを社会的合意として訴え続けることが何よりも重要であると考える。



## 早雲寺創建五百年雑感

早雲寺住職　千代田紹禎

早雲寺は北条氏綱を開基として大永元年（1521）に創建されました。
令和三年（2021）に創建五百年を迎えたことになります。

創建時の資料が残されていないので早雲の遺志によると言う伝承も早雲の墓所や伽藍の配置も確認する手立てがありません。氏綱・氏康・氏政の代に小田原北条家の菩提寺として多くの塔頭が建てられ大徳寺派の関東における中心寺院として発展したことは間違いなく、天文年間に夾山した南禅寺の禅僧東嶺智旺が早雲寺の伽藍を「輪奐之美」と称えた目撃証言や塔頭の存在を伝える当時の文書からも十分想像できることです。秀吉の小田原攻めによって貴重な資料が失われたことは戦国の世の習いとして不可避のことであったでしょう。しかし、早雲・氏綱・氏康の三代画像や歴代住職の頂相、後奈良天皇の綸旨・勅書などの文書、数少ない絵画・工芸品が疎開して喪失を免れたのには当時の住僧衆の並々ならぬ働きがあったと想像します。江戸時代に再建された早雲寺の歴代住職がこれらの貴重な宝物を守ってきたことにより北条時代の寺の盛衰を偲ぶことができるのです。そして、これからの五百年にむけて次の世代に引き継ぐのが私の使命だと思っています。コロナ禍が小康状態になった令和 3 年 11 月 18 日に檀家の皆さんと創建五百年記念式典を挙行できたことは幸いでした。神奈川県立歴史博物館でもその前に記念特別展を開催することができました。明治維新後、廃仏毀釈と境内地の国有化によって全国の寺院が苦難の時代を迎えました。早雲寺も例外ではありません。県重文指定の本堂襖絵が売却されようとした時、世話人連名で住職に請願し売却を免れたこともありました。それほど経済的に窮していたのです。

大正・昭和戦前期には地域住民の檀家数の増加と寺の部屋の間貸しでしのいでいたと聞いています。平成から令和にかけて少子高齢化による人口の減少時代となり墓仕舞いが急増し檀家制度の根幹をゆるがしています。地方の疲弊と地域社会の崩壊をくいとめようと全国で必死の努力が続けられています。被災した能登の深刻な状況は余所ごとではありません。創建五百年を回顧しても地球の温暖化、戦争と核の脅威や感染症の不安など人類が今まで経験したことのない時代に入っているのを思うと楽観する気にはなれません。ひとりひとりが既成の観念を考え直す必要があるようです。寺院仏教も例外ではありません。

お知らせ
イベントのお知らせ、会報誌のバックナンバーは
下記URLから閲覧いただけます。
https://hakonemamoru.localinfo.jp/
お問合せ
事務局長 上妻 信夫　電話090-1091-7192まで

はこね
発行　箱根を守る会　会長　川崎英憲
箱根町湯本 386-66　TEL 0460-85-8355
e-mail　hidenorikawasaki@mti.biglobe.ne.jp
箱根を守る会は、随時会員を募集しています。
箱根の歴史や自然を知り、それを保護していく事の大切さを皆さんと考え行動します。箱根が魅力ある観光地であり続けるために！年会費 2000円